

2020 年度

# 人権を学ぶ会

## 「まとめ」

実施期間:2020 年 9 月~11 月

北 栄 町  
北栄町教育委員会  
北栄町人権教育・啓発推進協議会

## 2020年度 人権を学ぶ会 実施概要

北栄町の将来像である「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」の実現のため、人権を尊重するまちづくりを推進する必要がある。その具体的な取り組みとして、町民一人ひとりが学ぶことをきっかけとして、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざして「人権を学ぶ会」を実施した。

今年度の学習内容は、新型コロナウイルス感染症対策のため、事務局が指定したDVD視聴のみとし、開催時間を短縮するため視聴後の懇談もなしとした。

ただし、各自治会の主体性を尊重し、実施の可否や参加定員の設定などは各自治会において判断していただいた。

開催は9月5日から始まり、11月20日で全ての自治会が終了した。

### 【実施状況】

実施自治会 44 自治会  
未実施自治会 19 自治会

### 【学習内容】

DVD 視聴 44 自治会(ヒーロー)

### 【特記事項】

未実施自治会に対しては、自治会内での人権啓発放送と、人権啓発チラシの配付を依頼

### (学習のポイント・ねらい)

- 人権問題が私たちの生活の中で身近にあり、自分自身に関わる問題でもあることに気づき、問題解決に向けて自分たちに何ができるかを考える。
- これまでの自分の行動や発言について、差別に結びつくことや偏見などがなかったか振り返る。
- 人権問題に対する正しい認識や判断力を持ち、身のまわりの不合理を正していくための力をつけるために、継続的な学習参加の必要性を認識する。
- 一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚し、お互いを認め合い、人と人との助け合い、支え合い、交流により、すべての人の人権が尊重された安心して暮らせるまちづくりにつなげる。

## 2020年度 人権を学ぶ会 まとめ

実施期間 2020年9月～11月

実施自治会 44自治会

参加者数 597人（昨年度 1,112人）

参加率 12.2%（昨年度 22.8%）

### 〔参加者の意見から〕

#### 人権を学ぶ会の取り組みについて(抜粋)

- この時期やる必要が本当にあるかと思っていたが、いざ参加してみると改めて意識を持って日常の実践ができるように感じ、参加してよかった。
- テーマが現代社会の変化(地域のつながりが希薄になってきた社会)に対応したもので、良いと思った。
- 訪問者の「今は努力しないと人と縁を結べない時代となっている」という挨拶に、そうだと感じた。地域でできることを考えたい。
- DVDの感想だけでも発言があればよかった。強制はダメだが、上手く発言できる進行の工夫があればと思った。
- 地域で人権を学ぶ機会は大変重要であり、コロナだから中止ではなく、どうやったら開催できるか考え、開催していただき感謝している。
- DVD視聴前のポイントの説明や、資料中にねらいが提示され、良く分かった。
- 昨年のように地域の中学生と共に学べる機会としてほしい。

### 〔考察〕

新型コロナウイルス感染症の影響で、各自治会の行事が相次いで中止となるなか、町としても人権を学ぶ会の実施の可否について議論を重ね、北栄町人権教育推進協力員会議や北栄町人権教育地区推進員会議などでも検討し、開催時間の短縮や3密を避けるなどの感染防止対策を徹底したうえで実施することとした。

しかし、行事そのものを自粛している自治会での開催は困難であり、44の自治会での開催にとどまり、参加者数も前年度と比較して515人の減となった。

なお、教材DVD「ヒーロー」が無縁社会と人権をテーマとしていることから、今年度は関連団体である「北栄町社会福祉協議会」及び「北栄町福祉課」と連携し、啓発チラシを参加者に配布した。

また、会の進行に関して、訪問者の終わりの挨拶を聞いてからアンケートを記載したいという複数の要望を受け、進行方法を変更した結果、訪問者の挨拶に関する感想がアンケートに記載されるなど、一定程度の評価を得た。

### 社会・地域・家庭・自分を振り返っての意見(抜粋)

- 地域に住む人同士で目配りをする、声をかけ合う関係があると、何かあった時に頼れる、相談し合う、次の行動につながる解決策へ導いていけるように感じた。
- 地域の中でも様々な家庭があるが、近所の付き合いを普段からしていると、困った時に助け合うことができる。近所の付き合いは改めて良いことだと思った。
- 一言の声掛け、行動はなかなか勇気がいるものだが、努力はしたい。
- 他人のお子さんに注意することの難しさと、高齢者の方へ意見を言うことの難しさを感じている。
- 自治会のつながりの弱さを感じることもあるので、しっかりつながり支えあって、地域づくりをしていきたい。

#### [考察]

44の自治会すべてが教材DVD「ヒーロー」を視聴し、無縁社会と人権に関する学習テーマで学んだ。地域における自分自身の生活や他者との関りなどを改めて振り返り、気をつけたいとする意見や、地域全体で支え合う視点、そのためにも地域でのつながりが大切であるとする意見が多くあった。

一方で、普段からの付き合いがない方への声掛けや具体的な行動は、難しさを感じるという意見もあった。

作品中の「“助けて”と言うのは恥ずかしいことでなく、“人を信じること”」というフレーズが印象的だったとする感想も複数あり、地域の中で希薄化したつながりを取り戻すためにも、「助けて」と言える、言われる関係性をどうしたら作れるか考えていく必要がある。

### 学んだことから行動に活かす意見(抜粋)

- 無縁社会とならないように、部落の集まりや行事には積極的に参加したい。
- 地域のつながりが苦しんでいる人を助ける。誰にでも声掛けをして支え合いたい。
- 子どもが小学生の頃、毎朝通学路に出て見送っていた。子どもの様子を知り、地域のつながりも持てたと思う。今後も、朝夕など家の前に出て声掛けをしたい。
- プライバシーの関係で他人に触れられたくないこともあるので、他人になかなか話せないこともあり、難しいと思う。
- 他人のことは見て見ぬふりになりがちだが、時には声かけも必要だと感じた。
- 他人事をどうすれば脱却できるか、やはり学び続けなくてはならない。

#### [考察]

「地域を振り返る良い機会になった」、「積極的に声掛けや挨拶をしたい」という意見を多くいただいた。日頃の自分自身の言動を振り返る、地域の中でまわりの人との関わりを改めて考える機会にするなど、学びを深める機会となっている。

人権について学ぶことが、一人ひとりが大切にされ、共に支え合える地域につながっていくことをさらに伝え、それぞれの行動を促していく必要がある。

## 〔参加者アンケート結果から〕

### ●アンケートの概要

次年度以降の学習方法・内容等の検討資料とするため、人権を学ぶ会の参加者を対象にアンケートを実施した。

また、2018年度よりアンケートにおける性別欄を撤廃した。これは、性的少数者への配慮に加え、性別の記載が本会に必要な情報ではないと北栄町人権教育推進協力員会議で判断したことによる。

なお、これまではアンケートの回収率を上げるために、会の途中に記入時間を設けていたが、複数の要望を受け、今年度より訪問者の終わりの挨拶等を聞いた後、閉会后にアンケート記入するよう日程を変更した。

◆アンケート回収率 92.0%(参加者 597人中 549人分回収)

※昨年度回収率 90.0%(参加者 1,112人中 1,000人分回収)

### ◆アンケート回答者の年齢

(単位:%)

|       | 19歳以下 | 20代 | 30代 | 40代  | 50代  | 60代  | 70代  | 80代以上 |
|-------|-------|-----|-----|------|------|------|------|-------|
| 2020年 | 0.2   | 0.2 | 4.4 | 14.3 | 18.2 | 36.4 | 23.5 | 2.8   |
| 2019年 | 3.9   | 0.5 | 5.0 | 14.4 | 17.1 | 33.7 | 22.1 | 3.3   |
| 2018年 | 1.0   | 0.2 | 3.5 | 11.2 | 19.2 | 40.2 | 21.8 | 2.9   |
| 2017年 | 1.2   | 0.1 | 2.8 | 13.0 | 20.9 | 42.5 | 17.8 | 1.7   |
| 2016年 | 0.4   | 0.4 | 3.0 | 11.9 | 20.0 | 45.3 | 16.4 | 2.6   |

#### 〔考察〕

全ての参加者のうち、50代以下と60代以上で区分した場合の参加者割合は、50代以下は全体の37%(昨年41%)、60代以上は全体の63%(昨年59%)となり、50代以下の参加率が若干下がっている。

昨年度は、中学生への参加奨励が若年層の増加に結びついたが、今年度は各自治会での参加制限もあり、中学生の参加がなかったことも50代以下の参加率の低下の原因と推察される。

DVD視聴等を中心とした現在の学習方法は、中高生などを含めた若年層の参加も十分意義があり、今後も若年層の参加を増やしていくために、家族ぐるみの参加を促すことや、学校等への働きかけも継続していく必要がある。

また、高齢者については老人クラブ等の団体を対象とした「人権を学ぶ会」を並行して開催しているため参加者が分散している状況もある。

●アンケート結果と分析(数値:%)

問1 本日の人権を学ぶ会に参加して、あてはまる回答にひとつ○をしてください。

① 今日の学習内容(DVD・ミニ講演等の内容)は、

|       | ア わかりやすかった | イ わかりにくかった | ウ どちらともいえない |
|-------|------------|------------|-------------|
| 2020年 | 90.8       | 2.6        | 6.6         |
| 2019年 | 83.8       | 4.2        | 12.0        |
| 2018年 | 75.1       | 6.9        | 18.0        |
| 2017年 | 89.9       | 1.6        | 8.5         |
| 2016年 | 90.2       | 1.3        | 8.5         |

[考察]

学習内容について「わかりやすかった」と回答した参加者は 90.8%で、過去 5 年間の中で最も高い割合となっている。

今年度は実施したすべての自治会で教材 DVD「ヒーロー」を学習しているが、アンケート意見の中には、DVD のねらいや視点が資料中に明記してあり分かりやすい、もっと地域の人に見てもらいたい内容である、などの意見もあり、結果はその現れと考えられる。

また、今回の「無縁社会と人権」というテーマは、地域の中での人と人との日常に直結しており、参加者の多くが自分事としてイメージしやすい内容だったこともこの割合につながっていると考えられる。

② 今回の懇談は、話しやすい雰囲気です(懇談を行う学習パターンAのみの設問)

|       | ア あった | イ なかった | ウ どちらともいえない |
|-------|-------|--------|-------------|
| 2020年 | —     | —      | —           |
| 2019年 | 71.7  | 2.2    | 26.1        |
| 2018年 | 59.7  | 4.5    | 35.8        |
| 2017年 | 74.0  | 3.9    | 22.1        |
| 2016年 | 66.4  | 6.9    | 26.7        |

[考察]

今年度は感染防止対策のため DVD 視聴後の懇談を実施しないこととしたため、アンケートの設問はしていない。

しかし、アンケートの自由記載欄には、懇談がないと学びが深まらない、懇談がなければ学習とは言えないなど、懇談を求める意見が複数あった。

さらに、懇談という形ではなくても、多少の感想をいう場面が欲しかったとする意見もあり、これまで懇談を取り入れた学習方法を実施していた自治会やその参加者にとっては、物足りなさを感じていることが伺える。

### ③ 今回の人権を学ぶ会に参加して、今後に活かせる学習に

|       | ア なった | イ ならなかった | ウ どちらともいえない |
|-------|-------|----------|-------------|
| 2020年 | 86.3  | 0.7      | 13.0        |
| 2019年 | 78.0  | 0.8      | 21.2        |
| 2018年 | 73.7  | 2.1      | 24.2        |
| 2017年 | 82.0  | 1.1      | 16.9        |
| 2016年 | 86.8  | 0.8      | 12.4        |

[考察]

昨年と比較すると、今後に活かせる学習になったとする割合は大きく増加し、過去5年間の中でも、2番目に高い割合となっている。これは、「地域の中で自分に何ができるか考えたい」などの意見も複数あるように、DVDの内容が、自分事として捉えやすかったことも考えられる。

世代を超えた地域での関わり方やプライバシーの問題など配慮が必要であったり、慎重にならざるを得ない場合もあるが、改めて地域で自分ができることを知ることで、何が人権問題なのかを気づき、自信を持って行動することが可能になる。

人権問題の解消は、まず「知る、感じる、気づく」ことから始まり「行動」へと繋がっていくものであり、今後も「知る」、「感じる」、「気づく」を導く学習テーマや教材を提供し、一人ひとりが行動できるような学習としていく必要がある。

### ④ 次回の人権を学ぶ会は、

|       | ア 参加したい | イ 参加したくない | ウ どちらともいえない |
|-------|---------|-----------|-------------|
| 2020年 | 74.3    | 0.7       | 25.0        |
| 2019年 | 68.0    | 1.4       | 30.6        |
| 2018年 | 70.5    | 1.3       | 28.2        |
| 2017年 | 69.5    | 1.5       | 29.0        |
| 2016年 | 74.6    | 1.1       | 24.3        |

[考察]

設問①の分かりやすさや、設問⑥の満足度の割合が大きく増加したこともあり、次回の人権を学ぶ会に「参加したい」と回答した割合は過去5年間の中で2番目に高い割合となっている。

「参加したい」の理由として、「様々な差別や偏見を知り、その向き合い方を学びたい」、「学ぶ機会があることは重要」など、新たな知識を得ることができたことや、理解につながったとするアンケート意見があることから、実際に学びを確実に感じる参加者が次回も参加したいとする前向きな意見につながっていることも伺える。

様々な人権問題について自分事として現状を正しく把握し、差別を解消していくために、自分自身ができることは何か考えていただくことが必要である。

## ⑤ 今回の人権を学ぶ会の満足度はどれくらいですか？

|       | 満足   | どちらかといえ<br>ば満足 | どちらとも<br>いえない | どちらかといえ<br>ば不満 | 不満  |
|-------|------|----------------|---------------|----------------|-----|
| 2020年 | 37.3 | 49.2           | 12.6          | 0.4            | 0.6 |
| 2019年 | 27.4 | 52.6           | 18.0          | 1.9            | 0.1 |
| 2018年 | 25.3 | 48.5           | 22.2          | 3.4            | 0.5 |
| 2017年 | 30.3 | 47.1           | 20.0          | 2.1            | 0.5 |
| 2016年 | 31.3 | 50.2           | 16.1          | 2.2            | 0.2 |

### 〔考察〕

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると86.5%になり、過去5年間で最も高い満足度になっている。しかも、これまで一番高い割合が81.5%だったことから今回の満足度の高さは際立つ結果となった。これは、設問①の分かりやすさも過去5年間で最も高い割合だったことも要因として挙げられ、身近なテーマ設定での学習が満足度を押し上げたものと推察される。

また、満足度に関しては懇談の有無も影響すると思われる。年に1回の限られた時間のなかで、参加者確保を含め「まず知ること」を優先するのか、参加者が少なくても一人ひとりの認識の「深まり」を優先するのか、又はその両立を図るのか。

今回は懇談をなしとして実施したが、懇談の有無について、当面は柔軟な対応をしていくことが求められる。

## 問2 この3年間に人権学習の場に何回参加されましたか？

|       | ア 5回以上 | イ 3回～4回 | ウ 1回～2回 | エ はじめて |
|-------|--------|---------|---------|--------|
| 2020年 | 17.9   | 37.1    | 30.0    | 15.0   |
| 2019年 | 18.2   | 33.6    | 30.2    | 18.0   |
| 2018年 | 17.6   | 33.3    | 32.8    | 16.3   |
| 2017年 | 18.0   | 32.8    | 35.1    | 14.1   |
| 2016年 | 14.9   | 31.7    | 33.9    | 19.5   |

### 〔考察〕

はじめて参加する人の割合が昨年度より低下している。これは全ての自治会ではないが、3密を避けるため、参加者を自治会役員のみ限定するなどの人数制限を実施した自治会も複数あり、このようなことも少なからず影響していると思われる。

今年度は関連団体である「北栄町社会福祉協議会」及び「北栄町福祉課」と連携し実施した。来年度の状況は不透明だが、今後とも人権を学ぶ会で取り上げるテーマと関連する団体等と連携し、人権の取り組みの裾野を広げていくことを意識しながら、初めて参加される方を少しでも増やしていくことも含め、引き続き連携・啓発に努める必要がある。

### 問 3 今後、学びたい人権テーマや、興味ある人権テーマは?(上位 5 テーマ)

- ①高齢者の人権 184 人(14.4%)
- ②障がいのある人の人権 158 人(12.4%)
- ③インターネットにおける人権 153 人(12.0%)
- ④プライバシーに関する人権 116 人( 9.1%)
- ⑤子どもの人権 113 人( 8.8%)

### 問 5 今回の学習内容(人権問題)に関連したご意見・ご感想をご記入願います。

#### [主な記述の抜粋]

- ・周りに気を配ることが余計なお世話になることもあると思うが、それでも周りに気を配りながら生活していこうと思った。
- ・コロナ差別という新たな問題がある中、改めて人権を考えるきっかけとなった。
- ・内容は理解できるが、実生活の中でどこまでできるか考えてみたい。
- ・コロナによる影響で中止の自治会がある中、実施できてよかった。
- ・懇談のない学習会は無意味。コロナで人権侵害がある今こそ、有意義な学習会になることを望む。
- ・このような時期、研修会等の開催は難しいと思うが、いろいろな方法を考えて開催してください。
- ・話し合いの機会があっても良いのではと思った。懇談がないと深みがない。
- ・コロナ感染者への差別的言動があり、私も今後自分自身の行動を考えたい。
- ・普段から地域のつながりが大切だと感じた。今後の自治会活動に活かしたい。
- ・コロナで自治会行事ができず、コミュニケーション不足を心配している。
- ・他人のお子さんに声をかけにくい時代。日々顔見知りになっておくことが大事だと思うが難しい。
- ・添付資料が分かりやすく、後から読むことができるので繰り返しの学びになる。
- ・高齢化や片親の増加のなか、助け合って生きることの大切さを知ることができた。
- ・いろいろ行事が中止になるが、このような関わりがあるのはとても大切。
- ・コロナ禍の中での研修であり、少人数で残念だが内容はとても良かった。
- ・生きることは人に助けられていると思った。
- ・1対1ならば関わりにくい面もあると思うので、輪になって取り組んでいけたら関わりやすくなると思う。

#### [考察]

「コロナの影響もありながら実施できてよかった」、「人権学習を繰り返すことが大切」など、貴重な学びの場になっていることが伺える。

一方で、地域の中での具体的なつながりの構築について、難しいとする意見や躊躇する気持ちも伺えることから、配布資料に学習ポイントだけではなく、具体的な行動を例示するなど、さらに工夫していくことが必要である。

## 問 6 本町人権教育の取り組みについて、ご意見・ご要望があれば記入願います。

### 〔主な記述の抜粋〕

- ・DVD を TCC で放送してもらえば、より多くの方が考えるきっかけになるのでは？
- ・子ども会行事や生徒会行事などでも取り入れるなど、人権を学ぶ会に世代を問わず多くの人に参加してもらい、共通の話題にしたい。
- ・学校では同和問題をしなくなっているらしいが、他に学ぶことが多いからか？
- ・年一回であるが、この取り組みは大事。異世代との意見交流の場がないから。
- ・ニーズに合わせてやらないと時間のムダ。
- ・63 自治会のうち、44 の実施と聞いた。未実施の自治会も、学習をしてもらえば町全体がもっと良くなるのではないか。
- ・人権問題=同和問題と考えていた。反省できた。
- ・毎回いろいろなテーマで自分を見つめる機会になり、良いと思う。
- ・人権学習の機会はもっとあっていいし、継続してほしい。
- ・自治会の中で、人権に関心を持ってもらえるような活動をすることも必要。
- ・会場だけではなく、リモートで開催できるようなことがあれば参加しやすい。

### 〔考察〕

様々な提言をいただき十分に検討していく必要がある。例年は若年層の参加促進や、他の自治会行事と併せた合同開催で参加者増をすべきなどの意見をいただいているが、今年度はコロナ禍においての実施方法や、懇談がなかったことについての意見を数多くいただいた。

コロナ禍においても安心して参加していただき、さらにマンネリと捉えられないよう「思い切った取り組みの変化」を含めて考えていくべきである。

### 〔おわりに〕

近年、少子高齢化、核家族化、ひとり親世帯の増加や地域のつながりの希薄化から、家族内や地域内での互いが支え合う力の低下が問題となっている。また、コミュニケーションの低下した状態での人間関係は、お互いを思い合い、違いを認め合うことも遠ざけてしまう。

このような社会状況の中で、地域の共助や地域全体で支える力を維持・再構築するためにも、町民一人ひとりが人権について学び、「誰一人取り残さない」地域にしていけるよう一緒に考え、実践することは重要であり、「人権を学ぶ会」の果たす役割も益々大きくなっている。

今後も、様々な人権問題の解消と人権が尊重された住みよいまちづくり推進のため、「人権を学ぶ会」を充実・発展させていき、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざす必要がある。